

第6回 大阪社会福祉士学会

テーマ いま、社会福祉士が向き合うべき価値・倫理とは

平成 **30** 年 **11** 月 **17** 日 **土** **13:00~17:00** (予定)

場所 **関西大学 堺キャンパス** 堺市堺区香ヶ丘町1丁目11番1号

定員 **100** 名 南海高野線浅香山駅下車すぐ

基調講演 (SA501 教室)

社会福祉における利用者とは誰か

関西大学 人間健康学部 教授 **山縣 文治** 氏

分科会

第1分科会 自由研究発表

シンポジウム

第2分科会 生涯研修センター調査研究部会 子ども家庭福祉プロジェクト
テーマ：児童養護施設における支援力向上の試み

ー入舟寮のアタッチメントを重視したケアの実践を通してー

第3分科会 大阪社会福祉士学会 大会企画シンポジウム

テーマ：ソーシャルワークにおける福祉専門職の役割と今後のあり方

*タイトルおよび内容は変更の可能性があります。

※終了後、堺東駅で懇親会を開催します。(参加費 5000 円 当日徴収)

参加費 都道府県社会福祉士会会員・後援各団体に属する会員 **2000** 円

大学・大学院生 **500** 円

一般(上記以外の方) **3000** 円

振込先：郵便振替口座 (番号) **00930-2-254215**

(名義) 公益社団法人大阪社会福祉士会

主催 (公社) 大阪社会福祉士会

後援 大阪府社会福祉協議会 大阪市社会福祉協議会 堺市社会福祉協議会

大阪医療ソーシャルワーカー協会 大阪介護支援専門員協会 大阪介護福祉士会

大阪精神保健福祉士協会 大阪ソーシャルワーカー協会

(以上 順不同)

F A X 送信方向

F A X 番号 06-4304-2773

(お間違えないよう再確認を！)

大阪社会福祉士会 事務局 あて

平成 30 年 月 日

参加申込書

大阪社会福祉士学会

お名前	ふりがな				
いずれかに☑ を入れてください	<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 後援各団体 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> その他 (上記以外)	会員番号 (会員のみ)		勤務先	
		支部名 または団体名		連絡先	(自宅・職場・携帯) — —

希望する分科会(すべて記入してください)

第1希望(第 分科会) 第2希望(第 分科会) 第3希望(第 分科会)

懇親会(どちらかに☑を入れてください。18:00～ 開催予定)

参加する 参加しない

(堺東駅周辺 会費 5,000 円 当日徴収 参加される方は、受付時にご案内いたします。)

※ご記入いただきました個人情報については本学会運営の目的以外への使用はいたしません。

【通信欄：参加費振込時期】

郵便振替口座 00930-2-254215 (名義) 公益社団法人 大阪社会福祉士会

※ 平成 30 年 11 月 12 日 (月) までに F A X にてお申し込みをお願いします。

F A X 番号 06-4304-2773

第6回 大阪社会福祉士学会 基調講演・分科会の詳細

基調講演

社会福祉サービスの提供が措置制度を軸とする時代から、利用者と事業者との直接契約制度を軸にする時代に舵を切り始めて、およそ20年が経つ。その際に重視された考え方が「事業者あるいは提供制度本位の供給から、利用者本位の供給」である。

ソーシャルワーク実践は、本来このような考え方を中心に発展してきたが、現実においてはさまざまな葛藤に直面する。とりわけ、子ども家庭福祉分野では、利用者を誰と捉えるかが困難なことがある。

昨年の児童福祉法改正で、子どもは権利の主体であると位置付けられた。民法では、未成年の定義の改正が決定した。当日は、虐待支援と絡めながら、子ども家庭福祉分野を中心に、利用者とは誰かということについて、参加者とともに考えてみたい。

第1分科会 自由研究発表

会員等がおこなった実践研究について、それぞれ発表をおこないます。

発表者と演題は、後日開催要項にてお知らせします。

第2分科会 生涯研修センター調査研究部会 子ども家庭福祉プロジェクト シンポジウム

テーマ：児童養護施設における支援力向上の試み

ー入舟寮のアタッチメントを重視したケアの実践を通してー

概要

社会的養護は施設養護中心から里親などの家庭養護へと大転換を図ることが求められている。施設には家庭養護をサポートする高度な機能が求められているが、ベテラン職員の減少、被虐待児の増加などにより実際の現場は困難を抱えている。

本分科会では児童養護施設「入舟寮」が施設不適應児童の増加という状況に陥ったことから養育を見直し、アタッチメントを重視したケアと開かれた養育を目指す取り組みを紹介するとともに、これからの施設の役割について検討したい。

シンポジスト

林 伸子 氏（入舟寮主任指導員）

西出 誠 氏（入舟寮主任保育士）

奥澤 恭子 氏（入舟寮高学年女子担当リーダー（ファミリーソーシャルワーカー兼任））

コーディネーター

久保 樹里 氏（大阪歯科大学 医療保健学部口腔保健学科 講師）

